

# 写真の力信じて映画に

## スペインの国際映画祭

フィルムで撮影したモノクロ写真で構成された短編映画が、スペインの国際映画祭で賞を受けるなど世界的に注目を集めている。ドキュメンタリー写真家岡原功祐さん(41)の監督作「blue affair」。自身が失いかけていた写真に対する情熱を再燃させるきっかけにもなった作品だ。



おかはら・こうすけ 1980年2月15日生まれ、東京都出身、京都市在住。著書に「Ibasyo」など。映画祭は「ラス・バルマス国際映画祭」。映画の日本公開は未定。

自傷してしまった女性たちや東日本大震災の被災地などを取材・撮影し、国内外で発表してきた岡原さん。「自分にうそをつくことなく表現できた」という「blue」(約13分)の舞台は、かつて「ゴザと呼ばれた沖縄市。まばたきをするような速度で切り替わるカットに氣だるげなモノローグが重なり、夢と現実を

## 沖縄作品で岡原さん受賞



①②映画「blue affair」の一場面

行き来するような内容はドキュメンタリーともフィクションともどれる。

沖縄で撮影を始める時期と前後

して、岡原さんは大きな壁にぶち当たっていた。約10年にわたり南米コロンビアで続けていた麻薬組織に関する取材中、ふと気づく

以前撮った写真をなぞつてしまい、それがいた。「写真家として終わった」。撮影することへの熱意も失いかけた。

そんなとき、偶然訪れたのがコザだつた。地元の人たちはみな魅了され、撮りたいという気持ちが湧いてきた。何も期待せずにただ写真を撮ることが楽しめた。

これまでより自由に表現物を創ることができる

映画祭の審査員からは「映画の質感で見る者を夢中にさせる」と賛辞を贈られた。沖縄の海に潜る没入感を再現すべく、水面に映像を投影する上映の構想もあるといふ。写真の面白さを再発見した写真家は、活躍の場をさらに広げていく。